「墓参り2.0」で負担軽減　新型コロナでニーズ可視化

＃ハッシュタグ

#東京 #千葉 #埼玉

2023/3/23 5:00 [有料会員限定]

首都圏で新しいお墓参りの形が広まりつつある。費用を抑えられるサブスクリプション型やメタバース（仮想空間）霊園など、お墓参りにかかるさまざまな負担を軽減できるサービスが相次ぐ。子どもの負担を考え「墓じまい」を選択する人が増えており、こうした負担軽減にもつながる「墓参り2.0」は定着していきそうだ。

種徳寺（東京都港区）にある「納骨堂」

お墓に関するサービスを提供する「のうこつぼ」（東京・目黒）は2021年から、月額制のサブスク型サービスを始めた。全国30都府県にある170以上の寺院と提携し、好きな寺院の納骨堂に遺骨を納められ、ペットの遺骨と一緒に納骨できるところもある。

もともとのうこつぼは複数の区画に分かれた「納骨墓」を分譲販売していたが、ライフスタイルの変化に伴い、供養にかかる費用を抑えつつ家の近くにお墓を移転したいといった要望に応えるサブスク型に乗り出した。月額は3980円で、初期費用として故人の名前を書いたプレート代など10万円ほどがかかる。

納骨堂は寺院が所有しており、掃除や読経などもしてくれる。同社広報によると「実家の墓まで行くのは時間的にも経済的にも大変だが、お墓参りはしたいという問い合わせが増えている。パートナーが外国籍で、将来的にどうなるか分からないので一時的に利用するという例もあり、人によってサブスクを選択する理由も様々だ」という。

核家族化の進行などにより墓参りの負担軽減に向けた動きが加速している。お墓を更地に戻す墓じまいや他の供養先へと遺骨を移す「改葬」の件数は増加しており、厚生労働省の調査によると過去最高となった19年度には12万件を超えた。

アルファクラブ武蔵野の新サービスは、メタバース上で葬儀や供養に参加できる

葬儀場などを運営するアルファクラブ武蔵野（さいたま市）は1月から、メタバース（仮想空間）で葬儀や墓参りなどができるサービス「ネット霊園 風の霊」の運用を始めた。アバター（分身）が冠婚葬祭に参列・供養する。新型コロナウイルス禍でネットを活用した祭礼のあり方が注目されたことを受け導入を決めた。

風の霊は会員登録制で、個人埋葬や永代供養、遺影預かりなど多様なプランがある。入会方法は対象者の死去後の入会、生前入会、墓じまい後入会の3種類。開発元のテクニカルブレイン（東京・台東）とはシステム一式の譲渡契約を締結した。同社は「メタバースがお墓の悩みを解決する一つの方法になることを踏まえて契約を結んだ」としている。

納骨できる手のひらサイズの「デジタル墓」の販売に乗り出したのが、ITベンチャーのスマートシニア（川崎市）だ。「お墓」にはQRコードが付いており、スマートフォンなどで読み込むと保存した故人の写真や動画などが表示される。

墓じまい後は合祀（ごうし）するのが一般的だ。自治体も合葬式墓地の整備を急いでおり、千葉市は23年度にも市営墓地の平和公園内に樹木葬墓地の供給を始める。高齢化に伴い課題を増すお墓参り問題に、民間・行政問わず向き合うことになりそうだ。（森岡聖陽）

＃墓参り2.0

新型コロナウイルス禍による帰省自粛の広がりをきっかけに、お墓参りの負担を軽減したいというニーズが可視化されるようになり、民間事業者による新型サービスが増えた。墓参りにかかる手間だけでなく、墓石代など経済的負担が軽減できることが多く、今後も増加することが予想される。